

SOMPOインスティテュート・プラス

「SOMPO Institute Plus Report」Vol.89発行

子どもの遊び場をテーマに

SOMPOインスティテュート・プラスは6月30日に、「SOMPO Institute Plus Report」の最新号(89号)を発行した。本レポートは、保険事業を取り巻く環境変化を幅広くレポートしている。最新号の内容は次の通り。

「子どもはどこで遊ぶのか」「遊びの権利」から考える外遊び空間の変遷とこれから」

「昔に比べて、子どもが自由に遊べる場所が少なくなった」と感じる保護者は多いのではないだろうか。遊具の安全管理の強化、公園における利用制限の拡大、地域社会における子どもの遊びへの理解や受容の変化などを背景として、子どもが自由にのびのびと遊べる場は縮小しつつある。一方で、「遊ぶこ

と」は、児童の権利条約に位置付けられたすべての子どもの権利であり、子どもの健やかな成長や発達を支える重要な営みでもある。本稿では、子どもの遊び場をめぐる制度の変遷や都市公園の利用実態を整理しながら、日本の子どもの遊び環境がどのように変化してきたのかを考察している。その上で、欧州におけるリスク・ベネフィット評価や、子どもの主体的な遊びを支えるフレックバークの実践などを紹介し、危険を

一律に排除するのではなく、子どもの挑戦や成長につながる利益とのバランスを踏まえて遊び場のあり方を考える視点から、これからの遊び場のあり方を展望する。最後に、子どもの「遊ぶ権利」を社会全体で保障するという視点に立ち、子どもの挑戦や成長の価値を踏まえた安全管理と、地域社会の理解と受容のもとで子どもが自由に遊べる環境を築いて

いくことが、これからの遊び場政策に求められる、として論を結んでいる。

◇

SOMPOインスティテュート・プラスはSOMPOホールディングスのシンクタンクだ。「安心・安全・健康のテーマパーク」の実現を目指すSOMPOホールディングスの事業に直接関係する領域と、それにプラスして、社会課題の解決や

未来社会の共創に資する領域の調査・研究を行っている。調査研究成果の公表により、多様な人々の対話の促進と、ウェルビーイングを実現する未来社会の追求を目指している。「SOMPO Institute Plus Report」は、同社のウェブサイト(<https://www.sompo-ri.co.jp/>)から無料で閲覧できる。